

地域協働学校だより

令和7年12月24日

第11号

新宿区立市谷小学校

地域協働学校運営協議会

地域協働学校運営協議会からの報告です。5年生環境学習（SDGs）の一環として、企業や地域における環境保全に向けた取組についての講義をいただく機会がありました。2事例につきまして、ご報告いたします。

《海洋プラスチックごみと私たちにできること》

12月16日（火）4校時、5年生環境学習「アクション！～幸せに暮らせる地球のために～」に対する企業の取組事例と

して、船外機を製造している企業の方にお越しいただき「海洋プラスチックごみと私たちにできること」というタイトルで講義をしていただきました。



○船外機とは

本企業では製造している船外機（様々な用途の船や小型ボートに取り付け、取り外し可能な推進機関）の紹介、開発から製造に至るまでの工程について動画を用いてご説明していただきました。

○海洋プラスチックごみとは

私たちが日常生活で使用したプラスチック製品がポイ捨てや台風等の荒天によりきちんと処理されず海へ流れ着いてしまったごみのこと、世界の海に1億5000万トンも浮遊しており、大きな環境問題となっているというお話をありました。また、その海洋プラスチックごみが劣化して碎けたり削れたりして5mm以下の大きさになったものをマイクロプラスチックと言い、魚が食べてしまうことで人間にも影響が及ぶことが懸念されているというお話もありました。

○企業の取組

本企業では、SDGsの17のゴールから「12 つくる責任つかう責任」と「14 海の豊かさを守ろう」に向か、「オーシャンプロジェクト」を立ち上げ、世界中の海をきれいにしていくために主に下記3つの取組を実施しているそうです。

- ① 海、河川及び湖沼でボランティアの清掃活動を実施
- ② 船外機の製品や部品の梱包資材からのプラスチック削減
- ③ 船外機に取り付け可能なマイクロプラスチック回収装置の開発

○わたしたちにできること

海洋プラスチックごみが増えないように、日常生活でのプラスチック製品の使用を少なくすることや使用したあとにリサイクルかごみとして分別することが重要とおっしゃっていました。5年生の皆さんからの質問では「船外機で回収したマイクロプラスチックはどうするのか？」「海洋プラスチックごみを大量に排出している国はどこですか？」「船外機のマイクロプラスチック回収装置が一杯になってしまったらどうするのですか？」「最も多くの船外機を輸出している国はどこですか？」「他にも環境に良い製品開発をしているのか？」などたくさんの質問があり、環境問題や企業による環境保全に向けた取組に対する児童の関心の高さが見られました。



《スーパーマーケットにおける環境保全の取組について学ぼう》

12月16日（火）4校時、近隣のスーパーマーケットの店長の方にお越しいただき「スーパーマーケットでのSDGs活動について学ぼう」についてご講義をしていただきました。

「スーパーマーケットってどんな場所？」

毎日の生活に必要な食料品や日用品などを広く扱い、お客様が自分で商品を選び買い物する場所です。店内では、生鮮食料品の鮮度を保つため冷やす、商品がよく見えるように照明器具を使うなど、多くのエネルギーを消費していること及び商品が様々な会社や問屋など、多くの会社や人を介しているという話がありました。一方、SDGs活動としては様々な取組があり、以下の通り詳しく説明をしていただきました。

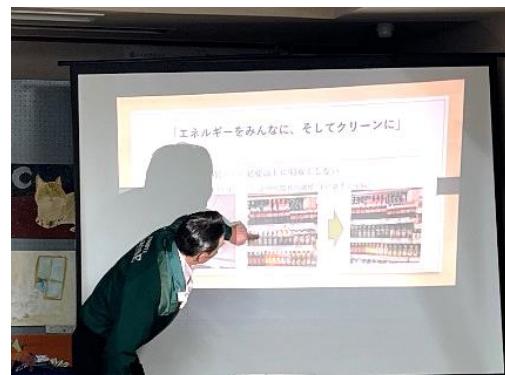


「エネルギーをみんなに、そしてクリーンに」

節電としてエアコン等の空調設備の効率化（サーチュレーターによる空気循環）を図っていて、10%削減となるそうです。照明設備の抑制としては、必要以上に明るくしない、スポットライトの不使用など、照明器具の調整をしています。

「つくる責任、つかう責任」

食品ロスの削減として仕入れ過ぎない、作りすぎないようにするために、天気予報や時間帯で来店されるお客様の人数や過去の販売データから販売数を予想して仕入れ数を決定し、その日の製造数を調整しています。また、使用する資源の削減として、例えばできるだけ野菜や果物など包装せずに過剰包装を控えて資材の削減をしています。さらに、作業場で使用する書類は裏紙も使用し、廃棄書類は段ボールと一緒にリサイクル業者へ出しています。



「気候変動に具体的な対策を」

産地直送商品の販売や配送の効率化を図って輸送時にかかるCO₂削減しています。秋田県大潟村の農家からお米を、島根県の農家から野菜を、青森県の農家からりんごを熊本県の農家さんからミカンを直送するというように、輸送の効率化を図っています。配送効率化については、自社の配送センターに市場から仕入れた商品を集め、都内のお店へ通路状況に応じて順路を変更しながら効率のよい配送の仕方などを工夫しています。



「働き方も経済成長も」「人や国の不平等をなくそう」

育児や介護、妊娠出産などがあっても働けるように勤務時間帯や労働時間、配属先の調整などされています。

「住み続けられるまちづくりを」

地域活動への参加…神奈坂スクラッチくじや青空フェスタに参加されています。

「すべての人に健康と福祉を」「人や国の不平等をなくそう」

被災地支援…能登地震で被災したスーパーマーケットへのクラウドファンディング支援協力のお話もありました。

※クラウドファンディング：資金調達したい人や会社がプロジェクトを公開し、不特定多数が支援を行うシステムのこと

児童の皆さんには、ゲストティーチャーの講義をしっかり聞いた上で、「食品ロスはどのくらい？」、「大変なことはどんなことですか？」など積極的に手を挙げて質問したり、聞かれたことに答えたりしていました。5年生環境学習の充実に向けて企業や地域のスーパーマーケットの方から大変貴重なご講義をいただきました。これからも学習に真剣に取り組むことで、環境保全に向けて自分たちにできることについて考えを深め、他校との環境学習発表会につなげてほしいと思います。